

島の介護を守り 若い職員を育てるため 東京にも進出

Top Interview

社会福祉法人新生福祉会 理事長

社会福祉法人新生福祉会理事長。2001年に介護職員として中途採用で入社し、生活相談員を経て2007年に特別養護老人ホーム楽生苑の施設長、2014年に理事長に就任し、現在に至る。社会福祉士、全国老人福祉施設協議会理事、中国地区老人福祉施設協議会会長

山中 康平

Yamanaka Kohei



地域に開かれた施設運営
島の介護・福祉を守る

——瀬戸内の島の社会福祉法人の理事長として、どんなことを心がけていますか？



新生福祉会は、瀬戸内しまなみ海道の通る生口島(広島県尾道市)で高齢者施設を運営する唯一の社会福祉法人です。島民の半数近くは高齢者です。特別養護老人ホームをはじめとした高齢者福祉を中心に、子育て支援なども行っており、地域との関係づくりを一番大事にしています。地域に開かれた施設運営を心がけ、地域とつながり、課題に気づき、地域の方と一緒に解決することをめざしています。

具体的には、島の中の空きスペースを借りて、地域の人が自由に活動したり、話をしたりする集いの場を提供しています。運営は地域の方にお任せしていて、職員は業務の合間に顔を出して、お話をうかがったりします。施設内のスペースでは地域の方が来にくいと思ったので、こちらから地域に向かうようにしました。西にある大三島(愛媛県今治市)でも週5日、保健師が常駐する集いの場を開設しています。ここでも地域の方が一緒に食事したり、おしゃべりしたり、時には健康相談も受け付け、必要があれば関係機関につなぎます。また、北に隣接する高根島(広島県尾道市)では、

で見れば島の介護ニーズは縮小し、このままでは法人の経営も難しくなるでしょう。現在、厚生労働省は、ガバナンス強化を求めて社会福祉法人の合併などによる大規模化を促しています。合併となったら、規模から考えて当法人は「される側」になる。そうなったとき、生口島にこれまで同様のサービスを継続して提供できるのか。サービスを維持するためにも、主体性をもった法人を残す必要があると強く感じ、本州に進出しようと思いました。

最初は広島市や福山市を考えたのですが、コンサルタントをしている知人に相談した所、「補助金も手厚くて介護ニーズもある東京にしたほうがいい」とアドバイスされ、足立区の案件を紹介されました。理事会では反対もありましたが、「末永く島の介護・福祉を支え続けるためにやらせてほしい」と説得し、承認を得ました。7法人の応募があったので無理だろうと思っていました。当法人に決まりました。

——東京での事業はいかがですか？ 今後、どんなことに取り組んで行かれますか？

尾道市の施設で働く介護職員は60代が3割、50代以上で半数を占めていることもあり、東京進出の際には若い職員を育てたいという思いもありました。しかし、採用面接に来なかったり、採用しても突然来なくなったりすることがあって、東京でも若い介護職を集めるのはそう簡単ではないと実

施設の車を使って買物支援サービスも行っていきます。

——障害者が就労し、宿泊・交流ができる体験型の福祉施設ができると聞きました。

日本財団みらいの福祉施設建築プロジェクト2021に応募して採択された事業です。

島に障害者の就労場所がありませんでしたし、しまなみ海道サイクリングを楽しむ方の宿泊場所も不足しているため、障害者の就労支援継続事業所と宿泊施設や交流スペース等を設けた複合施設を計画しました。島特産の瀬戸田レモンの搾汁所、パン工房・アンテナショップ、ホテルなどで障害者が生き活きと働き、さまざまな人が交流する地域に開かれた施設で、来年1月にプレオープン予定です。地域の福祉課題は高齢者だけではないので、障害者支援も子育て支援も自分たちができることをやっていきたいです。

東京進出を決めたのは
島民を支え続けるため

——昨年11月、東京都足立区に特養を開設されました。東京に進出した理由を教えてください。



生口島の十数カ所で事業を展開し、今後5年、10年単位では問題なく事業の継続ができると思います。しかし、島の人口は減少し、長い目

感じています。職員の様子が何か変だなど思ったら、声掛けをするなど早め対応するようにしています。

リーダーになるような人に尾道市の施設にも行ってほしい、現地の職員と交流し、新生福祉会がどういう法人なのか理解してもらいます。島にも十数人の技能実習生がいますが、東京でも24人の特定技能の外国人材が働いています。1日も早く独り立ちしてもらいたいです。

いざ開設してみるとユニット型の申し込みが少なく、利用者を集めるのに苦労するなど予想外のこともあります。それでも、満床にするのを急ぐよりもまずは人材を育て、受け入れ態勢をしっかりと整えるのが先決だと考えています。そして、この地区の方とつながり、地域公益活動に取り組みたいと思います。足元を固めて落ち着いてきたら、都内のほかの場所に施設をつくることも考えています。将来の夢としては、今働いてくれている外国人材の母国で、一緒に地域貢献していきたいです。

(取材・文/堀切孝治)

社会福祉法人新生福祉会

1998年に設立し、1999年8月に広島県尾道市で特別養護老人ホーム楽生苑を開設。その後、市内で養護老人ホームやデイサービスセンター、居宅介護支援事業所などの介護事業、児童発達支援、放課後等デイサービス事業など計14施設を展開する。昨年11月に東京都足立区へ進出し、特別養護老人ホーム新田楽生苑を開設。●広島県尾道市瀬戸田町林1288-6
TEL 0845-27-2943
FAX 0845-27-2943
E-MAIL info@seishin.or.jp